様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ５ 月 ２８ 日現在

機関番号：１４４０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2015～2019
課題番号：１５Ｋ０２５９９

研究課題名（和文）英詩メタファーの構造と歴史

研究課題名（英文）Structure and History of Metaphorical Expressions in English

研究代表者
渡辺　秀樹（Watanabe, Hideki）

大阪大学・言語文化研究科（言語文化専攻）・教授

研究者番号：３０１９１７８７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,500,000円

研究成果の概要（和文）：英語史と認知言語学の専門家が共同し、古英詩から現代詩を対象に身体部位名・動物名・感情表現の3つのカテゴリーが関わるメタファー表現の構造性と伝搬を明らかにすることを目指した本研究では、5年間に次の成果をあげた。古英詩Beowulfの身体部位名メタファーを論じた英文論文5本を作成、英国の国際学会で3回、国内学会で2回口頭発表を行い、改訂論文が海外専門誌と国内学会誌に掲載された。前回課題から引き継いだ『英語動物名のメタファー』の出版を目指し、動物寓意詩の翻訳メタファー論考論文を4本発表した。分担者の課題にも参加、本課題と関連する16－17世紀英詩の感情語の表象と系譜の研究で論文4本を出版した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
この5年間で研究代表者は、特に古英詩Beowulfのメタファーと擬人化の研究を進めて、英国における国際学会(2016-2017) での3度の口頭発表と内外の専門誌への2本の英文論文掲載がかなった。これらは代表者の大学院生時代からの30余年の研究の集大成となり、Beowulfにおける怪物と剣と炎と戦士が共通のメタファー表現で語られることを、学界で初めて示したものとなった。
　分担者はこの5年間に発表した和文英文論文により、英詩と日本短詩形文学における感情表現メタファーの研究の第一人者として認められ、『認知言語学大辞典』（2019）の「認知詩学」の項を執筆し、そこに研究成果を盛り込んだ。

研究成果の概要（英文）：　In this collaborative study of "Structure and History of Metaphorical Expressions in English poetical works" aimed at finding the historical lineages and the networking structures of various metaphorical expressions in the three categories of Body Part Terms, Animal Names and Emotion Terms, the two researchers have published 10 articles on the animal metaphor seen in the series of animal fables published in the beginning of the 19th century and continued to compile those articles related to the topic. They also published four articles on metaphorical expressions related to emotion terms used in Shakespeare's Sonnets. As their remarkable achievements, Watanabe read three papers on the metaphorical use of body parts and personification in Beowulf in the three international congresses (2016-17) held in the United Kingdom. Omori wrote the part of "Cognitive Stylistics" in the Encyclopedia of Cognitive Linguistics (2019) as the leading scholar in the field.

研究分野：英語歴史意味論

キーワード：メタファー　英詩　擬人化　古英詩　Beowulf　翻訳　系譜　レトリック

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

１．研究開始当初の背景

メタファーという現象は古くから多くの人が興味を持って論じてきたが、この 40 年の間に認知言語学の「概念メタファー理論」の広まりによって、言語だけでなく思考そのものがメタファーに基づいているらしい事がわかってきた。そして同時にメタファーの研究対象が文学作品から日常言語に、言語テクストから映像や音楽、造形芸術まで広がり、異なるメディアのメタファー相関関係も考察されるようになっている。

そうした潮流の中で文学作品のメタファーを「概念メタファー理論」を援用して再考察する機運が生じた。しかしこの分野での先行研究は、個別詩人や限られた時代を対象に行なっており、共時的構造性と歴史的連続性、これらを関連させて論じた研究は無い。この単独研究者では困難な複合的研究課題を、連携体制が出来ている文献学・英語史専門研究者と認知言語学・近代英詩研究者の共同研究により遂行する。研究代表者と分担者は同じ大学の同じ部局に属し、大学院の演習科目も共通の「認知レトリック論」を毎年担当している。このため共通の指導大学院生も多く、学生指導と研究成果発表の場を兼ねた「言語文化レトリック研究会」を分担者が主催して、2000 年以来 20 年続けてきた。このように本研究課題の共同研究の成果を、教育にも利用することができる環境にある。

２．研究の目的

「英詩メタファーの構造と歴史」の研究目的は、英語メタファー表現の根底には主要根源領域「身体部位名」「動物名」「四大（火・水・ 土・気）」が存在すること、それらに由来する具体的表現は類義・反義・上下関係で構造を成すこと、そしてその構造性は伝播されて、個別メタファー表現にも歴史的系譜があることを示すことである。各時代の代表的詩人の作品を主たる資料として、職業・行為・性格・感情を意味するメタファー表現が基づくそれぞれの根源領域を明らかにし、関連メタファー表現群と内部での構造性を示す。

３．研究の方法

「英詩メタファーの構造と歴史」では過去の 8 年間の科研費補助金を受けた共同研究の方法と成果を踏まえ、代表者が古英詩から Shakespeare までの英詩を文献学的アプローチで研究し、分担者は Shakespeare から 20 世紀英米詩を対象に認知詩学の方法を用いて研究するのを基本とする。用例や解釈については研究者間で知見を交換し、互いの論文草稿を発表前に閲読して完成度の高いものを目指す。

成果の発表は学会口頭発表と論文・研究書刊行で行う。研究結果を日本語と英語の単独論文、学術書、日本中世英語英文学会、日本認知言語学会、語用論学会及びメタファー研究会での口頭発表、シンポジウムで公表する。

代表者は IAUPE 第 8 回大会（2016 年於 London 大学）と IMC（2017 年於 Leeds 大学）において古英詩 *Beowulf* のメタファー考察と本文解釈について英語で口頭発表を行い、日本中世英語英文学会で日本語での発表も行う。分担者は日本認知言語学会とメタファー研究会で概念メタファーに基づく英詩と日本短詩形文学の解釈について口頭発表を行い、同じテーマでのシンポジウムを開催する。

英語動物名メタファーについては和文論文を所属部局が毎年 5 月に刊行する『言語文化共同プロジェクト』に掲載し、代表者と分担者の専門領域の古英詩と認知詩学については英文論文を内外の学会誌へ投稿して掲載を目指す。期間中に代表者主催の OED 研究会（会員 4 名）で翻訳研究の会合を年間 6 回開き、認知言語学と歴史意味論に関する英語研究書の翻訳書を 5 年に 1 冊の進度で出版する。

４．研究成果

この 5 年間の共同研究では、当初の目的の凡そを達成した。次にあげる 3 件は特筆すべき業績となった。代表者と分担者が属する OED 研究会で、メタファーの章を含むコーパス言語学専門書の翻訳本刊行を行った（『英語コーパスを活用した言語研究』大修館　2016 年 3 月）。代表者は英国での国際学会において 3 度、古英詩 *Beowulf* のメタファーについて口頭発表した。これは代表者の 30 年以上に渡る古英詩研究の集大成となり、International Association of Professors of English (IAUPE)の会員に推挙されて可能になったことである。これらの発表で、*Beowulf* においては戦士・怪物・剣・炎が互いに相手を表すメタファーとして用いられており、メタファーが円環構造をなすことを学界で初めて提示した。分担者は概念メタファーに基づく一連の英文論文が国際誌に続けて掲載されたことで認知詩学の分野の先導的研究者と認められ、『認知言語学大辞典』（朝倉書店　2019 年 10 月）中の「認知詩学」の項の執筆依頼を受けた。この項 10 ページには、分担者が共同研究で発見した言語事実や概念メタファー理論の補正が多数盛り込まれており、長くこの分野の基本参考文献となるだろう。

やり残した仕事としては『英語動物名のメタファー　その構造と歴史』の出版がある。これは代表者と分担者の 10 余年の共同研究で執筆出版した 20 余本の日本語論文を研究書に編集し直して刊行するというものであり、既に出版社から 2 冊分冊にするという方針も得ている。この全体の編集作業を進める中で、既に発表した『犬の議会』と対照的な『獅子の議会』というナポレ

オン戦争を背景にした異色の動物寓意詩の存在を知り、これを 2019 年 9 月の英国出張で英国図書館での閲覧において転写・翻訳を行った。2020 年 3 月に再度の英国出張し、既発表の寓意詩 7 点の英語本文の再校正を行う予定であったが、コロナウイルスの蔓延の影響で外国出張がかなわなかった。よって研究期間中には英語動物寓意詩 2 点について新たな論文 4 本を執筆出版することとなった。

また上記の OED 研究会で、歴史意味論の重要文献である Christian Kay & Kathryn Allan 著 English Historical Semantics の翻訳書の刊行を目指しているが、研究期間内では第 9 章を未訳として残し、出版には至っていない。これらは継続研究課題「英詩メタファーの構造と歴史 II」(2019-2022) で引き続き取り組む所存である。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計16件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　1件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 Hideki Watanabe	４．巻 1
２．論文標題 “The Significance of nacod nith-draca (Beowulf 2273a) Reconsidered: The Metaphorical Link Interconnecting fire, swords, warriors and monsters”	５．発行年 2018年
３．雑誌名 Aspects of Medieval English Language and Literature	６．最初と最後の頁 41-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

１．著者名 渡辺秀樹	４．巻 1
２．論文標題 英語感情名詞のメタファーの系譜　第1回　序及び fear（The Oxford English Dictionary 引用例を資料として）	５．発行年 2018年
３．雑誌名 『レトリック、メタファー、ディスコース　言語文化共同研究プロジェクト2017』	６．最初と最後の頁 1‐18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 渡辺秀樹	４．巻 なし
２．論文標題 英語感情名詞のメタファーの系譜　第1回　序及び fear（The Oxford English Dictionary 引用例を資料として）	５．発行年 2018年
３．雑誌名 レトリック、メタファー、ディスコース　言語文化共同研究プロジェクト2017	６．最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Hideki Watanabe	４．巻 31
２．論文標題 “J. R. R. Tolkien, Beowulf: A Translation and Commentary together with Sellic Spell. Edited by Christopher Tolkien.”	５．発行年 2016年
３．雑誌名 Studies in Medieval English Language and Literature	６．最初と最後の頁 53-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 渡辺秀樹	4．巻 なし
2．論文標題 「Wilfred Owenの「笑い」の類語とメタファー　The Last Laughは誰の笑いか」	5．発行年 2017年
3．雑誌名 言語文化共同研究プロジェクト2016	6．最初と最後の頁 印刷中で未定
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 渡辺秀樹	4．巻 92
2．論文標題 書評論文 『英語教師のためのコーパス活用ガイド』（大修館書店）	5．発行年 2015年
3．雑誌名 英文学研究	6．最初と最後の頁 190-194
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 大森文子	4．巻 －
2．論文標題 「認知詩学」	5．発行年 2017年
3．雑誌名 『認知言語学大事典』（朝倉書店）	6．最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 渡辺秀樹	4．巻 －
2．論文標題 「19世紀英国寓意詩 The Council of Dogs (1808) 本文校訂・脚注・日本語訳」	5．発行年 2016年
3．雑誌名 『越境するレトリック－意味・認識・間テキスト性　『レトリックと英語の語彙　言語文化共同プロジェクト2015』（大阪大学　言語文化研究科）	6．最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 大森文子	4．巻 ー
2．論文標題 「動物寓意詩The Council of Dogsにおける擬人化と寓意のメタファー」	5．発行年 2016年
3．雑誌名 『越境するレトリックー意味・認識・間テキスト性　『レトリックと英語の語彙　言語文化共同プロジェクト2015』（大阪大学　言語文化研究科）	6．最初と最後の頁 19-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 大森文子	4．巻 -
2．論文標題 「The Lion’s Parliamentにおける寓意のメタファー」	5．発行年 2020年
3．雑誌名 『レトリックとメディア（言語文化共同研究プロジェクト2019）』	6．最初と最後の頁 21-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 大森文子	4．巻 -
2．論文標題 「Owenのメタファーとオクシモロン」	5．発行年 2019年
3．雑誌名 『レトリックとコミュニケーション（言語文化共同研究プロジェクト2018）』	6．最初と最後の頁 11-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 大森文子	4．巻 1
2．論文標題 「人の心と空模様：シェイクスピアのメタファーをめぐって」	5．発行年 2018年
3．雑誌名 『メタファー研究』	6．最初と最後の頁 175-194
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 大森文子	４．巻 -
２．論文標題 「喜びと悲しみのメタファー：ShakespeareのSonnetsをめぐって」	５．発行年 2018年
３．雑誌名 『レトリック、メタファー、ディスコース（言語文化共同研究プロジェクト2017）』	６．最初と最後の頁 19-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 大森文子	４．巻 -
２．論文標題 .「束縛と孤独：イメージスキーマで読み解くOwenの　“Ｓ．Ｉ．Ｗ．”」	５．発行年 2017年
３．雑誌名 『交差するレトリック―精神と身体、メタファーと認知（言語文化共同研究プロジェクト2016）』	６．最初と最後の頁 19-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 大森文子	４．巻 -
２．論文標題 「メタファーのデザイン」	５．発行年 2015年
３．雑誌名 『英語のデザインを読む』（沖田知子、米本弘一編）英宝社	６．最初と最後の頁 106-118
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 大森文子	４．巻 -
２．論文標題 「認知詩学とスキーマ」	５．発行年 2015年
３．雑誌名 『レトリックと英語の語彙（言語文化共同研究プロジェクト2014)』	６．最初と最後の頁 15-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計9件（うち招待講演　1件／うち国際学会　4件）

1．発表者名 渡辺秀樹
2．発表標題 第1次大戦戦地から生還したBeowulf : Wyatt校訂版（1894）とGollancz教授の現代英語訳断片（lines 1159b-1622）
3．学会等名 日本中世英語英文学会西支部例会
4．発表年 2017年

1．発表者名 Hideki Watanabe
2．発表標題 “The significance of nacod nith-draca (Beowulf 2276a) reconsidered: The metaphorical link interconnecting fire, a sword, a warrior and the monsters”
3．学会等名 International Medieval Conference (at University of Leeds)（国際学会）
4．発表年 2017年

1．発表者名 渡辺秀樹
2．発表標題 The Oxford English Dictionaryを研究と授業に利用する
3．学会等名 大阪市立大学英文学会　（講演）（招待講演）
4．発表年 2017年

1．発表者名 Hideki Watanabe
2．発表標題 “What a Good Sword!: Narrative Significance of the Sentences in the Form of 'that was good cyning' Reconsidered with Special reference to Beowulf 1812b”
3．学会等名 International Association of University Professors in English, Medieval Session（国際学会）
4．発表年 2016年

１．発表者名 Hideki Watanabe
２．発表標題 “Sir Israel Gollancz’s Translation of Beowulf (lines 1159b-1622) Edited from his Handwritten Leaves Found Inserted in Wyatt’s Edition (1894).”
３．学会等名 International Association of University Professors in English（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 渡辺秀樹
２．発表標題 J. R. R. Tolkienの散文訳Beowulf (2014) の文体論考
３．学会等名 日本中世英語英文学会　東支部
４．発表年 2015年

１．発表者名 Hideki Watanabe
２．発表標題 Sir Israel Gollancz's Translation of Beowulf (lines 1159b-1622)
３．学会等名 2016 International Association of University Professors in English (IAUPE)（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 大森文子
２．発表標題 「人の心と空模様：シェイクスピアのメタファーをめぐって」
３．学会等名 日本語用論学会メタファー研究会（於：京都大学）
４．発表年 2016年

１．発表者名 大森文子
２．発表標題 「藤井治彦先生の思い出」阪大英文学会50回記念シンポジウム藤井治彦先生
３．学会等名 阪大英文学会
４．発表年 2017年

〔図書〕　計2件

１．著者名 渡辺秀樹・大森文子	４．発行年 2018年
２．出版社 松柏社	５．総ページ数 94
３．書名 Advanced Reading Word to Word	

１．著者名 渡辺秀樹・大森文子・加野まきみ・小塚良孝　訳	４．発行年 2016年
２．出版社 大修館書店	５．総ページ数 250
３．書名 英語コーパスを活用した言語研究	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	大森　文子 (Omori Ayako) (70213866)	大阪大学・言語文化研究科（言語文化専攻）・教授 (14401)	